

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2872600255
法人名	(有)ケアサポートかさい
事業所名	グループホーム銀の鈴
所在地	加西市畑町2289-59 (電話)0790-43-7001

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年11月8日	評価確定日	平成20年12月27日

【情報提供表より】平成20年9月20日記入

(1)組織概要

開設年月日	平成12年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤2人	非常勤10人 常勤換算5.4人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	3階建ての	1階	～ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり1,000円			

(4)利用者の概要(8月21日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 87.3歳	最低	78歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	城谷医院・西村歯科
---------	-----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

30年以上前に開発された、加西市の山あいの静かな住宅街の一角にある【グループホーム銀の鈴】は、当初から同地に居住し長年に亘り両親を介護してきた経験を生かすため立ち上げた設立者の熱い思いが伝わってくる、1ユニットのこじんまりとしたアットホームな施設である。ホームの運営方針を「利用者が、家庭的で馴染みのある環境の中で、安心と尊厳のある生活を送れるよう支援」としているとおり、一人ひとりの能力と状況にあわせて、自らの役割を果たせるよう支援している。訪問調査日の昼食休憩後に全員で、つるし柿作りに挑戦している状況は、まさしくそれを実証していると思われた。平成20年4月から、提携医療機関城谷医院の協力を得て、24時間対応の医療連携体制が確立出来ている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:第三者4)
	管理者、職員が全員で自己評価の項目を、一つひとつ点検を行うことによって、日常のケアの見直しと確認の機会と捉えて行く取り組みが求められていたが、第三者評価の結果を全職員による勉強会で、検討し確認することで、日常のケアに活かす様に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	昨年の第三者評価の結果を踏まえて、自己評価は、管理者とケアマネージャーが相談して、各項目ごとに、担当職員の意向などを考慮しながらとくんだ跡が伺える。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	これまでの運営推進会議のメンバーである、加西市職員・団地の区長(自治会長)利用者家族の代表・ホームの管理者とケアマネージャーに加えて、本年度より新しく開設した地域密着型多機能施設の利用者の家族にも参加を呼びかけて、地域密着型サービスの意義等について説明し、ホーム利用者の日常生活ぶりや、第三者評価の結果などを詳細に報告した上で、サービスの質の向上策について幅広い意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	毎月、利用者の生活ぶりや行事の様子について、文書や写真にまとめホーム便りとして送付するなど、家族との関係強化の取り組みがある。又、家族の来所時には、介護計画を説明して、家族からの意見を聞くように努めている。出された意見や苦情などは「苦情報告書」「ご意見カード」を作成して、利用者に関する情報を全ての職員が共有して、日常の運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	設立から8年を経過して、地域の年中行事である夏祭り・収穫祭には必ず参加するなど、ホームは完全に地域に溶け込んでいる。近隣の人からは利用者の外出の際の声掛けをはじめ、新鮮な野菜の差し入れや遠出した時のみやげ物なども頂いている。今後は、グループホーム運営で培った認知症高齢者介護のノウハウを活かし、地域社会に対し認知症の早期発見や介護予防についての情報提供の拠点となるような取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立者自らが長年地域で居住してきた歴史的経緯の中で実践された高齢者ケアのありかたは、地域密着型サービスの理念そのものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域性に根ざした理念を共有し、その実践に向けてスタッフ一同が全力で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホープの利用者が地域の住民としての市民権を得ており、地域活動の中にも参加できている。	○	グループホームにおいて、地域住民並びに世代交流の場として、来訪いただけるような取り組みを実践し、単なる地域住民であるというだけでなく、地域社会に対して認知症の早期発見や介護予防についての情報提供場所としての取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることについて、職員全体として共通認識が持っている		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能施設の併設を期に、地域密着の意義を理解する機会ととらえた取り組みがなされている		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回のグループホーム連絡会には、市職員が必ず出席することで、連携を保っている。又、市派遣の介護相談員の月1回の提起訪問時の機会を生かして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
1					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族のかかわりにも諸事情を配慮し、経費請求時等の機会をとらえて様子の報告等をして家族の関係を強化できるように配慮がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には、ケアプランその他の説明時に苦情などを反映できるような取り組みがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接した多機能ホームの職員等との交流があり、職員の移動時に際しても心的負担が軽減される取り組みがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画にもとずき実施する他、市主催のセミナー等には、必ず代表参加してそれを全職員に伝達するなど、全体のレベルアップに努めている。	○	時間的制約のあるなかにも、自己研鑽したいとの意見があり、内部研修だけでなく、今後に向けての専門性を発揮した対応体制(資格取得等)を充実していけるような研修への取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内4箇所グループホームが連絡会を持って、情報の交換や勉強会、相互訪問等の活動を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の自宅訪問・ホームの見学・多機能施設の利用などにより、徐々に慣れていただけるような取り組みを実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は日中は殆どリビングで過ごす機会をもち、介護頻度の差を考慮しつつも、不公平なく、利用者に対して個別に対応する時間配分に注意が払われている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1ユニットという小規模の特性から、利用者の情報をスタッフが周知しやすい状況であり、個別の情報を集約し、本人主体のケアに反映する努力が図られている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時のヒヤリングにもとずき、担当スタッフの個別意見を総合してケア計画に取り入れる努力が図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとの見直しを実施しているが、本人・ご家族との話し合いに基き、状況変化に応じて必要と思われるサービス内容の変更を迅速に対応している。特に、身体変化についてはご家族と連絡を取り、通院時はご家族の対応がいただけるよう配慮されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時にご家族の対応が不可能な場合、受診付き添いや入退院のサポートなども実施されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院は、地域において信頼度の高い病院であり、緊急時等は市民病院への紹介状をもって連携できるようなとりくみがなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的なケアを継続しなければならない状況以外は、できる限りの継続した対応ができるよう取り組まれている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要事項説明書等にプライバシー重視の内容を明記し、ご家族にも理解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の好みに合わせた日常生活プログラムを配慮し、意思確認できにくい方に対しては、表情しぐさや他の入居者からの情報を配慮し、できるかぎり自己決定できる取り組みが配慮されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り、調理の段階から共同作業していただき、お一人お一人の能力に合わせた取り組みがなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は安全面を優先する為、時間などの希望に沿いかねる場合はあるが、会話を楽しんでいただくなどの配慮がされているまた、自力入浴できる方については、要望をお聞きし時間帯を設定できるようにされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	吊るし柿作りなどの季節感を感じることができる手仕事それぞれの能力に応じた作業をスタッフが協力し、ユニット全体が大きな家族のようなまとまりを感じさせる雰囲気作りが出来ている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事に積極的に参加し、日常のホーム周辺の散歩コースは、入居者の体調や天候に配慮し、補助機器を使用して介助誘導できるような取り組みがされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関などの日中時の施錠はなく、空気がこもらないようにされているが、のれん等でプライバシー確保の配慮もされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域連携による自主防災的な取り組みはされているが、施設において一方向の避難経路しか確保されておらず、この度工事にかかることとなった。	○	避難経路確保の為の工事準備中

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給については昼間時と夜間に分けて管理できるように配慮し、個人の好みだけでなく、メニューに汁物・果物などをくわえてバランスの取れた内容が配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内・居室・リビングにおいては手作りの額やぬいぐるみなどが配置され、季節の花を各自がいけばなとして居室に飾るなどのくふうがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居者の馴染み写真や日常道具が配置され、各自の個性が伺える室内環境となっている。		